

FTEM 推進に連携し (FTEM に位置づけた)

U15 日本代表の一次選考およびエリートアカデミー候補選考について

R7 年 2 月 23 日 (日) JHA_U15 カテゴリー部会_第 2 回常任委員会

報告者: JHA 強化育成本部 エリートアカデミー事業責任者 馬場治男

*青字: 常任委員会提案時のコメント

*赤字: 常任委員会で確認・協議された内容【報告】

《背景》・・再度確認

- ・ JHA の新体制では、FTEM に基づいた発掘・育成・強化を推進していく。
- ・ U15 日本代表選考会が中央選考会 1 回で行われていることに、JHA 強化育成本部等から改善の要請が出ていた。(物理的に対応が難しかった)
- ・ U15 日本代表の対象年齢を中学 3 年生に限定していることに(本来の 15 歳以下にするよう)改善の要請が出ていた。(1 回の選考会で対象を増やすことはキャパ的に難しかった)
- ・ エリートアカデミー候補者(選考会参加者)をブロックから選出するにあたって選考の機会を新設するなど対応を検討する必要が出てきた。

▽

▽

《FTEM に位置づけるにあたっての配慮事項》

- ・ FTEM を推進するにあたって、
上記課題を解決すべく、新しいパスウェイを検討していく。
- 2 U15 一次選考(地区選考)、エリートアカデミー候補選考のタイミングとして前年度の 12 月から 1 月に実施 ⇒選考会後の MTG で 12 月は寒い・・・、10 月実施で検討を!
また、同日程開催か? 3 地区を HC がまわられるようにするか?
⇒R7 年度は 11 月の上旬に設定する。
 - ・ 12 月は寒く、R6 中日本一次選考は雪の悪天候であった。
 - ・ 10 月最終週の都道府県対抗 11 人制大会と 11 月下旬の U15 海外遠征の間に設定する。(東日本は 11 月第 1 週を候補に)
 - ・ HC は 3 地区を回り、同じ視点で 3 地区の様子(レベル)を確認したいという意見もあったが、上記の日程設定から 3 地区の日程を全て分けるのは物理的に不可能である。
- ・ 選考会を単なる選考の場でなく、強化の機会としたい。
志の高いアスリートが一同に介することから、お互いに良い刺激を与え合う場としたい。

▽

▽



《進捗状況》

R6.5.19_「FTEM と連携した U15 およびエリートアカデミー候補選考について」

U15 カテゴリー部会常任委員会で提案

- ・ 大枠承認され、選考会の日程等についての具体的計画については常任委員を中心に調整していくこととなった。(7月中旬を目安に)

R6.7.16_尾木先生により、一次選考会の開催通知の原案が提示される。

R6.12._各地区で第1回地区選考会を各地区で実施



- ・ 東地区 (東北・関東) 日時: 12/21-22 選考会場: 栃木県
地区責任者: 佐々木先生
- ・ 中地区 (東海・北信越・近畿) 日時: 12/8 選考会場: 滋賀県
地区責任者: 山田先生
- ・ 西地区 (中国・四国・九州) 日時: 12/14-15 選考会場: 愛媛県
地区責任者: 道端先生

* 当事業に関する役割分担 (当初案) . . . 実際の選考スタッフは報告書参照

- ・ 企画・事業全体統括 (FTEM 連携) 馬場 治男 (JHA 強化育成本部
エリートアカデミー校長)
- (JHA_U カテゴリー強化育成部連携) 道端 良之 (U15 チームリーダー)
- ・ 選考事業統括 (選考基準の作成) 松村 洋介 (U15 男子 HC 兼
エリートアカデミーNF コーチ)
- 山田 亨平 (U15 女子 HC)
- ・ 事務・庶務統括 (U15 日本代表連携) 幸田 伸也 (U15 遠征事務局長)
- (新事業の事務) 尾木 典隆 (U15 遠征事務局)
- (U15 部会との調整) 久保 克敏 (U15 部会事務局長)
- 徳光 寿 (U15 部会事務局)
- ・ 各地区選考会の実務担当 (東日本) 曾根原龍太 (東北ブロック常任委員)
- 佐々木亮太 (関東ブロック常任委員)
- (中日本) 松本 大輔 (北信越ブロック常任委員)
- 藤原 信幸 (東海ブロック常任委員)
- 山田 亨平 (近畿ブロック常任委員)
- (西日本) 道端 良之 (中国ブロック常任委員)
- 川原 篤 (四国ブロック常任委員)
- 石井 幸美 (九州ブロック常任委員)

《各地区が行う具体的な内容》

◇R6 年度 U15 日本代表選考は、現中学 3 年生を対象に例年通りの時期と方法で実施。

◆R7 年度 U15 日本代表選考は、R7 エリートアカデミー候補選考と併せて今年度より始動する。

① 各地区選考会の時期・場所・実施責任者（選考会担当者、選考委員）を決める。

・ ・ 短い準備期間&予算0で新しい事業を展開していただいたことに感謝！

⇒ 今年度当初に提案された新たな事業を、予算なしの状況から各地区で工夫して実施してくれたことに改めて FTEM 推進部・エリートアカデミー事業責任者としてお礼を申し上げた。

また、一次選考を通して「多くの選手が 2 日間で目を見張るほど成長していることが確認できた(東日本委員より)」という感想をいただけたことも大変ありがたく思った。

② R7 年 1 月末迄に、現中学 1・2 年生を対象に



・ U15 地区選考会を実施する ・ ・ 各地区男女 15 名以内の候補選手を選考

※当初計画では東日本の選考人数は 10 名であったが ・ ・ ・ 選考会終了後のコアスタッフ MTG (招り合わせ会議) で選考人数に補正をかけた！

⇒ 発展途上の事業であることから修正を加えながら事業を進め、数年かけて完成させ定着させていきたい。

・ JHA エリートアカデミー第 4 期候補を選考する

・ ・ ・ 上記 15 名からエリートアカデミーを 希望する上位 5 名

↳ 希望者? ⇔ 強制参加??

・ 自己負担も発生することから「希望者」でよい。

・ 地区選考会前に、エリートアカデミーに参加することによる 経費の見込み (選考会の参加費、合格した場合の年間経費) を示して欲しい。

③ (JHA エリートアカデミー第 4 期選手選考会_R7.2.8-9_東京・大井ホッケー場)

⇒ 男女各 12 名程度を選考予定 (APS データ選考・3 期生からの継続者を含む)



※エリートアカデミーの適正人数を検討している！

・ エリートアカデミーの名に相応しいレベルのタレントは 24 名では多い？

・ JHA の財政状況悪化から、JHA 負担分の縮小を迫られている ・ ・

・ 若い世代から積極的に選考している現状⇔次年度継続者の割合が高くなる！

・ 選考の門を狭めすぎると、チャレンジする意欲はどうなるか ・ ・ ・ ?



※U15 部会として、現行の人数(24 名)程度は維持して欲しい。

選考会を設定しており、今でも狭い門が更に狭くなるのは ・ ・ ・

④ R7 年 9 月中旬に U15 日本代表中央選考会を実施

参加者・②(一次選考)を通過した各地区の男女各 15 名

・R7 年度全中大会優秀選手および各ブロックからの推薦者(詳細は要検討)

⇒男女各 18 名を選考する



※中央選考会への参加する権利の付与について【1~3 は確認、4 は協議して決定】

- 1) 地区選考会 (一次選考) の通過者
- 2) 当該年度の全中大会ブロック予選におけるブロック優秀選手
- 3) 当該年度の全中大会における全中大会優秀選手
- 4) 各ブロックから推薦者 (中学 3 年生に限る)

・自チームの選手にチャンスを与えたいというような安易な推薦になってはならない。あくまでも相当の実力があるのに名前が挙がり損なっていた選手(怪我・チームが勝ち進まず優秀選手に挙がらなかったなど)をブロックとして引き上げる措置とする。

・なお、この推薦については中学 3 年生に限る。(中学 2 年生以下は次年度に挑戦するチャンスがあるため救済の対象としない。)

- ・ブロックによる推薦者とする (チームからの推薦ではない)
- ・各ブロック内で、そのポテンシャルが誰の目からも認められるレベル
- ・怪我等の理由により、(実力があるのに) ここまでの選考チャンスで力を出せなかったことが認められる選手

FTEM推進に連携したU15選考の流れ 《改定案 5 / 20250223_U15カテゴリ一部会_第2回常任理事会説明資料》



《全体コンセプト》

- ・U15選考会を、エリートアカデミー発掘事業と連携しFTEM (T1~T2段階) に位置づける。
- ・選考会 (高い志を持つアスリート同士の競い合い) に参加することが強化に結びつくという信念に基づき選考会の段階を増やす。
- ・U15選考会を、今までの中央1回から、①地区 (東・中・西の3地区) ~②中央の2段階選考にする。
- ・地区選考会の会場は状況に照らし合わせて検討する。⇒R6年度は、東：栃木県・中：滋賀県・西：愛媛県で実施
- ・U15日本代表の対象年齢 (学年) を中学3年生限定を解除し中学2年生以下からも選考できることとする。⇨1次選考には中学1~2年生が参加！ (早期発掘・早期顕在化)

《エリートアカデミー候補選考コンセプト》

- ・エリートアカデミーの発掘は、経験者 (U15_1次選考を利用) とポテンシャルアスリート (J-STARを利用) の双方から並行して行う。
- ・エリートアカデミー経験者枠は中学1・2年生から選考する。【第2期から/適性検証に1年以上確保のため】
- ・エリートアカデミーポテンシャルアスリート枠は、APSに登録された14歳以下から選出する。(積極的に小学生からの選出を推奨) 【第2期から/種目転向の決断をする期間を踏まえて】
- ・現エリートアカデミー生 (第3期生) の中学2年生以下については、1年間の適性検証結果に併せて選考会の参加権利を与え次期継続を総合的に判断する。

《エリートアカデミーとU15が連携した2段階選考のイメージ図》

